

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	医学総論			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	医学とは何か、目指すものは何かを自ら考える。						
到達目標	1. 医は仁術であるという言葉を考えさせる。 2. QOL（生命の質、生活の質）を考えさせる。 3. 医学の発達の姿を知る。 4. 病因学を知る。 5. 病変の本態を知る。 6. 病的な形態を知る。 7. ホメオスタシスという言葉を理解する。 8. 病気の診断方法を知る。 9. 病気の治る過程を知る。 10. 医療チームの総合的医療がリハビリテーションであることを知る。 11. 病気を予防するにはどうしたらよいかを知る。 12. 生活習慣病を理解する。 13. 医療システムを考える。 14. 治療からターミナルケアまで考える。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	医療関係職種、施設						
2	日本の医療保険制度						
3	在宅ケア、わが国の救急医療						
4	災害医療、医療安全						
5	健康とは何か、ヘルスプロモーション						
6	たばこ対策、老人として生きる						
7	リハビリテーションを理解しよう						
8	近代医学の誕生						
9	人工環境と健康問題						
10	臓器移植医療、ゲノム医学						
11	医療の国際化、補完代替医療						
12	患者中心の医療						
13	医療と診療記録						
14	生命倫理、患者の権利						
15	個人情報、ターミナルケア						
評価方法	終講試験(100%)						
教科書	学生のための医療概論第4版						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	解剖学			担当講師	長戸 康和		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	4 単位	時 間	60 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	人体の形態・構造・機能、科学組成などを相互に関連させて提示し、それらを動的に理解把握させるとともに言語聴覚士にとって必須の項目を指摘して卒前卒後の学習に役立つ内容とする。						
到達目標	1. 骨に関する形態・構造・機能について説明できる。 2. 筋に関する形態・構造・機能について説明できる。 3. 消化器系に関する形態・構造・機能について説明できる。 4. 呼吸器系に関する形態・構造・機能について説明できる。 5. 泌尿生殖器系に関する形態・構造・機能について説明できる。 6. 内分泌系に関する形態・構造・機能について説明できる。 7. 神経系に関する形態・構造・機能について説明できる。 8. 言語聴覚士として必要な器官、部位の形態学的基礎知識を説明できる。 9. 言語聴覚士が知っておかなければならない基礎・臨床医学的事項を説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	直立する人体： 直立二足歩行への道のり
2	構成要素から見たヒトの身体： 細胞から組織、そして器官へ
3	形成過程から見たヒトの身体： 受精卵から胚葉の分化・器官形成
4	運動(随意運動)のための器官： (1) 骨と骨格・関節
5	(2) 骨格筋の構造と機能
6	身体を構成する運動器官： (1) 体幹の骨格と筋
7	(2) 頭蓋骨の構成と頭部の筋
8	(3) 口腔・咽頭の構成と頸部の筋
9	(4) 上肢の骨格と筋
10	(5) 下肢の骨格と筋
11	随意運動のための情報入力器官： (1) 視覚のための器官
12	(2) 聴覚と平衡覚のための器官
13	知覚情報と運動機能の統合器官系： 神経系(1) 神経系の基礎知識
14	神経系(2) 中枢神経
15	中間試験(1～14まで) カラースケッチ提出(1～41)
16	神経系(3) 末梢神経系：体性神経系
17	神経系(4) 末梢神経系：自律神経系
18	生命活動を支える器官系： 循環器・消化器・呼吸器・泌尿器
19	循環器の構成： (1) 心臓(主として構造について)
20	(2) 全身に広がる動脈と静脈・リンパ管
21	呼吸器官の構成： (1) 気道：鼻腔・副鼻腔・喉頭・気管と気管支
22	(2) 呼吸部：肺
23	消化器官の構成： (1) 消化管と消化腺

24	(2) 頭頸部・胸部：口腔から咽頭・食道
25	(3) 腹部消化器官：胃と小腸・大腸
26	(4) 腹部の消化腺：肝臓と膵臓
27	泌尿器官の構成：尿の生成と排泄のために、腎臓・膀胱・尿道
28	生殖器官の構成：有性生殖のための器官系
29	恒常性の維持のための器官：自律神経系・内分泌および免疫器官(臨床生理学に続く)
30	終講試験(16～29まで) カラースケッチ提出(42～93)

評価方法	出席率(5%)、筆記試験(中間試験(40%) / 終講試験(40%))、カラースケッチ(15%)
教科書	PT・OT・STのための解剖学 廣川書店 カラースケッチ解剖学 廣川書店
参考書	
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	臨床生理学			担当講師	長戸 康和		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	生命現象を科学席視点で捉えるために、生体機能発現における神経系の役割と神経細胞や筋細胞の機能の発現の仕組みを理解する。						
到達目標	1. 血液・体液の生理学的機能について説明出来る。 2. 循環器系の生理学的機能について説明出来る。 3. 呼吸器系の生理学的機能について説明出来る。 4. 内分泌系の生理学的機能について説明出来る。 5. エネルギー代謝の生理学的機能について説明出来る。 6. 消化・吸収の生理学的機能について説明出来る。 7. 排泄の生理学的機能について説明出来る。 8. 生殖・発生の生理学的機能について説明出来る。 9. 脳機能と視覚・聴覚の関連について説明出来る。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	構造と機能の基礎知識 生命維持のための基本システムとは
2	恒常性の維持と体液バランス（１） 血液循環のしくみとその調整
3	恒常性の維持と体液バランス（１）：続き 血液循環のしくみとその調整
4	恒常性の維持と体液バランス（２） 体液と血液：造血器官と血球
5	恒常性の維持と体液バランス（３） 呼吸とその調整システム
6	恒常性の維持と体液バランス（４） 腎臓の機能と尿の生成
7	恒常性の維持と体液バランス（５） 体液調節と体温調節
8	生命活動を支える仕組み（１） 食事と生体機能：味覚と嗅覚・摂食機能とその障害
9	生命活動を支える仕組み（２） 脳機能と身体（１）：「見る」こと
10	生命活動を支える仕組み（３） 脳機能と身体（２）：「聞く」こと 「話す」こと
11	生命活動を支える仕組み（１） 睡眠：ヒトはなぜ眠るか
12	生命活動の調整（１） 自律神経とホルモンによる調整
13	生命活動の調整（２） 生殖機能を調整するホルモン
14	生命活動の調整（３） 生体の防御システム：自然免疫と獲得免疫
15	生命活動の調整（４） 皮膚と痛み：身体を守る最前線

評価方法	出席率(5%)、筆記試験(中間試験(40%) / 終講試験(40%))、カラスケッチ(15%)
教科書	やさしい生理学 南江堂 カラスケッチ解剖学 廣川書店
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	病理学			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	疾病の原因、成り立ち、生体反応などの知識を通して、より科学的に疾病を理解し、より効果的な治療や予防を考えることができる方策を身につける。さらに最近の病理学は微細解剖学、分子生物学、遺伝学、免疫学などの分野からも検討されるようになり大きく発展しているので、それらの観点を踏まえた病理学が把握できるようにする。						
到達目標	1. 古代の医学がどのようにして近代病理学に分化・発展してきたかを説明できる。 2. すべての疾患は何らかの原因をもとに発生することを説明できる。 3. 病因にはどんな内因と外因があるかを、それぞれ関連疾患名をあげて説明できる。 4. 退行性病変に属する細胞・組織の変性、萎縮、壊死について説明できる。 5. 生命維持に重要な物質代謝が異常を起こすと、どんな疾患を引き起こすかを説明できる。 6. 細胞・組織の再生、化生、肥大、過形成の病的意義や創傷の治癒過程を組織学的に説明できる。 7. 循環障害によって引き起こされる各種重要疾患を病理学的に説明できる。 8. 免疫現象は異物に対する生体防御反応であるが、自己を攻撃することもあることを説明できる。 9. 生体防御に炎症反応が関与するが、それらの現象を代表的な疾患を例に挙げて説明できる。 10. 感染症は病原体と宿主の力関係で決まるが、その病原体の種類と主な疾患を説明できる。 11. 腫瘍は細胞の自律的増殖であるが、増殖の仕方によって良性腫瘍か悪性腫瘍になることを説明できる。 12. 腫瘍とがんを区別でき、がんの死亡率の推移や生活習慣も発ガンの原因になることを病理学的に説明できる。 13. 放射線は生体に病的な影響を与える一方で、診断にも利用されていることを病理学的に説明できる。 14. 老化、加齢、寿命の定義を説明でき、老化によって現れる各種臓器の変化を病理学的に説明できる。 15. 奇形の発生原因や疾患の遺伝的しくみを説明でき、関連する主な疾患名を挙げることができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	病因						
2	先天異常①						
3	先天異常②						
4	循環器						
5	炎症						
6	感染①						
7	感染②						
8	免疫①						
9	免疫②						
10	アレルギー①						
11	アレルギー②						
12	進行・退行変性						
13	腫瘍						
14	まとめ①						
15	まとめ②						
評価方法	終講試験（100％）						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 病理学 医学書院						

参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	内科学			担当講師	辻 正富		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	P T ・ O T ・ S T の仕事を円滑に行うためには、常にその対象である人の全身的な病態を正確に把握しておかねばならない。基本的に、代表的な病態の概略を理解してほしい。						
到達目標	1. 生体活動は、環境因子も含めた多彩な外来性攻 因子に晒されており、そのぶつかり合いの過程で生じるバランスの崩れが疾病として発現につながる。その際、生体が営んでいる摂食、様々な労働作業、休養などいわゆる生活習慣が、その病態の発現と進展や抑制に大きく関わっていることをまず理解してほしい。 2. 疾病を持ったヒトがどのような悩みや症状を持つかを判断できるようになってほしい。 3. 疾病によって起こる活動性の低下やその程度をどのようにして判断するかも理解してほしい。 4. 疾病の経過中にどのような容態の変化が起こりえるかも理解していただければ、リハビリテーションの計画、立案や実行に役立つであろう。 5. 高齢者の増加に対し、健康寿命の延長、フレイルの予防の観点からも各種疾患・病態を理解してほしい。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	循環器疾患						
2	高血圧疾患						
3	消化器疾患						
4	消化器疾患						
5	肝疾患、胆のう疾患						
6	大腸疾患、血液疾患						
7	血液疾患						
8	代謝						
9	糖尿病						
10	糖尿病						
11	メタボリック症候群、高尿酸血症						
12	内分泌疾患						
13	腎疾患						
14	呼吸器疾患						
15	膠原病						
評価方法	定期試験（100％）						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 医学書院						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	精神医学			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	精神疾患の理解（国試レベルの学力を身につける事と、実施訓練）						
到達目標	1. 精神疾患の分類と基本的概念の理解 2. 法的手続きの実際 3. 統合失調症患者の理解と対応 4. 躁うつ病、神経症患者の理解と対応 5. 言語化困難な患者（疾患）の理解と対応 6. 治療論（どのような治療がなされているかの理解と応用） 7. 言語聴覚士における音楽療法の実際 8. テストに対する技能の習得						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	精神疾患の分類 ショートスピーチトレーニング						
	精神衛生学（精神保健）						
2	疾病分類，面接基準						
	精神医学的検査						
3	精神障害の治療法（1）：薬物療法，精神療法						
	精神障害の治療法（2）：社会復帰療法，リハビリテーション						
4	臨床心理学の基礎：ライフサイクルからみた基本的な精神発達						
	法的変遷とその理解 T E Gと自己分析						
5	各論（統合失調症） コミュニケーション理論						
	各論（躁うつ病/神経症 他） 行動療法						
6	各論（認知症/発達障害学） 総論のまとめ						
	治療論 コラージュ療法						
7	治療論 コラージュ療法						
	音楽療法						
8	治療者・患者関係：患者さんどう接するか						
評価方法	終講試験（100％）						
教科書	（指定教科書なし）						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	形成外科学			担当講師	西尾 康二、草野 義尊、田中 眞一、 稲川 良、松本 典之、高堀 雅子、 根本 皇太		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	言語障害を発生する顔面の外傷、疾病を中心に創傷の治癒という問題を掘り下げて考える。						
到達目標	1. 創傷の治癒過程について理解できる。 2. 皮膚形成術について理解できる。 3. 植皮について理解できる。 4. ケロイドについて理解できる。 5. 熱傷について理解できる。 6. 顔面神経麻痺について理解できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	顔面の形成外科学						
2	口蓋裂とその治療						
3	口唇・口蓋裂						
4	褥瘡、熱傷、顔面神経麻痺						
5	頭蓋、顔面の先天異常						
6	頭頸部手術に伴う障害						
7	言語聴覚療法に関する形成外科学						
8	まとめ						
評価方法	終講試験(100%)						
教科書							
参考書	講義資料を参照						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	小児科学			担当講師	石渡 千沙絵		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	小児の成長・発達について理解し、小児期に発生する各疾患と治療について知ること、療育やリハビリテーション、保護者支援の方法について学ぶ。						
到達目標	1. 小児の特徴と成長・発達、成人との違いについて理解する。 2. 各疾患の特徴と治療法について理解する。 3. 小児医療を通して、診療・リハビリテーションの在り方を理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	小児の発達と成長						
2	小児保健						
3	遺伝疾患と先天異常						
4	新生児・乳児期の特徴						
5	新生児疾患						
6	神経・骨・筋肉疾患						
7	循環器疾患						
8	呼吸器疾患						
9	中間試験						
10	感染症						
11	消化器疾患、内分泌・代謝疾患						
12	免疫・アレルギー疾患						
13	腎・泌尿器系、生殖器疾患						
14	血液疾患・悪性腫瘍						
15	心身症・神経症・精神疾患、眼科・耳鼻科系疾患						
評価方法	終講試験50%、中間試験30%、課題20%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	言語聴覚士のための基礎知識「小児科学・発達障害学」 第3版 医学書院						
参考書							
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	耳鼻咽喉科学			担当講師	草野 義尊		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能など、基礎的事項について理解を深める。各疾患の病態生理を理解し、検査やリハビリテーションなどについて言語聴覚士として必要な知識を身につける。						
到達目標	1. 外耳・中耳・内耳・後迷路の構造・機能についてより深く理解し、十分に説明できる。 2. 外耳・中耳・内耳・後迷路の疾患についてより深く理解し、十分に説明できる。 3. 顔面神経の構造と機能、顔面神経麻痺、聴力改善手術について説明できる。 4. 前庭・平衡系の構造・機能・検査について説明できる。 5. メニエール病、良性発作性頭位眩暈、前庭神経炎などの主要なめまい疾患について説明できる。 6. 鼻副鼻腔の構造・機能・検査、嗅覚、嗅覚障害などについて説明できる。 7. 外鼻疾患、形態異常、外傷など、主要な鼻副鼻腔の疾患について説明できる。 8. 鼻アレルギー、副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍など、主要な鼻副鼻腔の疾患について説明できる。 9. 口腔・咽頭の構造・機能・検査、について説明できる。 10. 舌・唾液腺疾患、鼻咽腔閉鎖不全、味覚障害など、口腔、咽腔の主要な疾患について説明できる。 11. 喉頭の構造・機能・検査、炎症性疾患、腫瘍・良性腫瘍などについて説明できる。 12. 喉頭の悪性腫瘍、外傷、音声外科、喉頭全摘・無喉症などについて説明できる。 13. 気管・気管支・食道の構造・機能、検査、疾患、気管切開術などについて説明できる。 14. 頸部の解剖、甲状腺を含む頸部の疾患、頸部郭清術、再建術などについて説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	耳科学①外耳・中耳・内耳・後迷路の構造・機能						
2	耳科学②外耳・中耳・内耳・後迷路の疾患						
3	耳科学③顔面神経の構造と機能、顔面神経麻痺、聴力改善手術						
4	耳科学④前庭・平衡系の構造・機能・検査						
5	耳科学⑤めまい疾患（メニエール病、良性発作性頭位眩暈、前庭神経炎など）						
6	鼻科学①鼻副鼻腔の構造・機能・検査、嗅覚、嗅覚障害						
7	鼻科学②鼻副鼻腔の疾患Ⅰ（外鼻疾患、形態異常、外傷など）						
8	鼻科学③副鼻腔の疾患Ⅱ（鼻アレルギー、副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍など）						
9	口腔・咽頭科学①口腔・咽頭の構造・機能・検査						
10	口腔・咽頭科学②口腔・咽頭疾患（舌・唾液腺疾患、鼻咽腔閉鎖不全、味覚障害など）						
11	喉頭科学①喉頭の構造・機能・検査、炎症性疾患、腫瘍・良性腫瘍など						
12	喉頭科学②喉頭の悪性腫瘍、外傷、音声外科、喉頭全摘・無喉症など						
13	気管・食道科学 気管・気管支・食道の構造・機能、検査、疾患、気管切開術など						
14	気管・食道科学 頸部の解剖、甲状腺を含む頸部の疾患など						
15	気管・食道科学 頸部郭清術、再建術など						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	STEP SERIES 耳鼻咽喉科第3版 海馬書房						
参考書							

備 考	
-----	--

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	臨床神経学			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	リハビリテーションにおける脳・脊髄神経系、末梢神経、筋の機能とそれらに關係する神経疾患の病態と診断、治療についての知識を学習する。また、個々の障害に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深めることを目標にしている。						
到達目標	1. 各神経系の構造と機能について説明できる 2. 各種障害の評価および神経学的診断法を説明できる 3. 代表的な神経疾患について説明できる 4. 神経疾患における診断・治療について説明できる 5. 神経疾患を有する方へのリハビリテーションについて説明できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	神経系の構造と機能						
2	脳神経系、自律神経系、他						
3	運動機能および感覚機能、運動機能障害および感覚機能障害						
4	各種高次脳機能および高次脳機能障害						
5	脳血管障害（画像診断、脳機能解剖など）						
6	脳血管障害（分類、評価法、急性期リハビリテーション、予後など）						
7	脊髄損傷						
8	パーキンソン症候群、ニューロパチー						
9	運動ニューロン疾患						
10	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発性硬化症						
11	ミオパチー、重症筋無力症						
12	小児疾患						
13	脳腫瘍、脊椎疾患						
14	脳脊髄炎、てんかん、他						
15	認知症						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	特に指定はない						
参考書	特に指定はない						
備 考	特になし						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	臨床歯科医学（口腔外科学）			担当講師	鈴木 規子		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	口腔・歯・歯周組織の構造と機能、及びそこに発生する疾患の病態・診断・治療・予防等について学ぶ。言語障害と口腔の構造・機能障害とは密接に関連する場合が多い。口腔・歯・歯周組織に発生する疾患について概略を知り、必要な症例にあたっては歯科医師等と緊密な連携をとるために必要かつ十分な知識を習得する。						
到達目標	1. 言語治療と歯科治療とを関連付けることができる。 2. 口腔・歯・歯周組織の構造を簡単に説明できる。 3. 口腔・歯・歯周組織の機能を簡単に説明できる。 4. 歯の成長・発育のしくみの概略を説明できる。 5. 歯科保健衛生について理解でき、適切な歯口清掃の仕方を説明できる。 6. 口腔・歯・歯周組織に発生する疾病の病態について概略を説明できる。 7. 口腔・歯・歯周組織に発生する疾患の診断・治療・予防等について概略を説明できる。 8. 保存修復・歯内・歯周治療など歯科保存領域の治療について簡単に説明できる。 9. 冠・橋・義歯・インプラントなど歯科補綴領域の治療について簡単に説明できる。 10. 抜歯や小手術など口腔外科領域の治療について簡単に説明できる。 11. 不正咬合や歯科矯正治療について簡単に説明できる。 12. 唇顎口蓋裂や顎関節症など顎口腔機能障害と関わる治療について簡単に説明できる。 13. 乳幼児・高齢者・障害者などを治療する場合の留意点について説明できる。 14. 新しい治療の話題やその試みを知る。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	歯科、歯科口腔外科総論						
2	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能						
3	歯・歯周組織の疾患						
4	口腔ケア						
5	口蓋裂にみられる障害、顔面の発生						
6	言語・構音の機能障害、嚥下障害						
7	先天異常、音声のしくみ						
8	咀嚼障害						
9	嚢胞・腫瘍						
10	舌切除による咀嚼・嚥下・構音障害						
11	機能障害に対する治療						
12	機能障害に対する補綴装置						
13	高齢者に対する摂食訓練						
14	回復期における歯科・口腔ケア						
15	まとめ						
評価方法	終講試験（100％）						
教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	聴覚医学			担当講師	安達 栄治郎、草野 義尊		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	聴覚器官の構造・機能など、基礎的事項について理解を深める。聴覚障害の病態生理を十分に理解し、検査やリハビリテーションなどについて言語聴覚士として必要な知識を身につける。						
到達目標	1. 外耳・中耳の構造について説明できる。 2. 内耳、聴覚路、聴覚中枢の構造について説明できる。 3. 集音機構、中耳伝音機構について説明できる。 4. 内耳感音機構、聴覚路・聴覚中枢の機構について説明できる。 5. 聴覚の病態、原因と発症時期などについて説明できる。 6. 奇形、異物、外傷、中耳炎、耳硬化症など主要な外耳・中耳疾患について説明できる。 7. メニエール病、老人性難聴、聴神経腫瘍、皮質性難聴など主要な内耳・後迷路疾患について説明できる。 8. 聴覚障害の治療を理解する。 9. 小児の難聴を理解する。 10. 検査機器の使用法を理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	耳の発生と異常						
2	耳の解剖：外耳・中耳						
3	耳の解剖：内耳						
4	耳の生理：聴覚生理						
5	耳の生理：体平衡の生理						
6	耳疾患の一般症状						
7	難聴						
8	中間試験						
9	外耳疾患						
10	中耳疾患						
11	内耳疾患						
12	後迷路性・中枢性疾患						
13	乳幼児の難聴						
14	耳の検査法						
15	耳の検査法						
評価方法	定期試験50%、中間試験30%、課題20%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	病気が見える⑬ 耳鼻咽喉科						
参考書	STEP 耳鼻咽喉科 海馬書房 新耳鼻咽喉科学 南山堂						
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	音声医学			担当講師	西尾 康二、松本 典之		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	発話や発声に用いられる諸器官の構造および機能について学ぶ						
到達目標	発話や発声に用いられる諸器官の構造および機能について説明することができる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	胸郭の構造と働き
2	呼吸筋
3	内喉頭筋と外喉頭筋（前半）
4	内喉頭筋と外喉頭筋（後半）
5	声帯の構造
6	小テスト
7	鼻咽腔のメカニズムと軟口蓋の筋
8	舌の筋
9	下顎筋（咀嚼筋）と顎関節
10	顔面筋
11	確認テスト
12	音声医学総論
13	音声医学総論
14	音声医学総論
15	音声医学総論

評価方法	終講試験（100％）
教科書	配布資料
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	言語医学			担当講師	西尾 康二、田中 真一		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	言語聴覚士の扱う障害に医学的根拠をあたえる科目である。 言語に関する構造・機能を解剖学、生理学の基礎から理解し、言語医学の基盤に基づいてコミュニケーション障害の病態に対する基本的な概念を形成する。言語的活動の理解に資するため、それを広く取り巻く脳神経活動を包括的に理解する。認知・神経科学の基礎となる中枢神経系の構造・生理学的知見を学ぶ。あわせて基本的な高次脳機能障害についても学ぶ。						
到達目標	・発話の神経運動支配を知る ・脳神経を知る ①言語と聴覚のための脳神経を理解する ・脳神経を知る ②脳神経の役割を理解する ・言語中枢メカニズムとその障害を知る ・基本的な高次脳機能障害を知る ・班発表で役割を分担できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	発話の神経運動支配
3	脳神経 言語と聴覚のための脳神経
4	上位運動ニューロン障害
5	下位運動ニューロン障害
6	言語中枢メカニズムとその障害①
7	言語中枢メカニズムとその障害②
8	言語中枢メカニズムとその障害③
9	言語中枢メカニズムとその障害④
10	言語中枢メカニズムとその障害⑤
11	言語中枢メカニズムとその障害⑥
12	言語中枢メカニズムとその障害⑦
13	言語中枢メカニズムとその障害⑧
14	言語中枢メカニズムとその障害⑨
15	まとめ

評価方法	終講試験50%、班発表課題50%に基づいて学修成果を判定する
教科書	病気が見える No.7 脳・神経 メディックメディア
参考書	プリントを適宜配布
備考	教科書を読みながら進めていくが事前によく教科書を読み理解しておくことが必要である。 発表準備を班ごとに十分しておくこと。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	生涯発達心理学			担当講師	小幡 知史		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	4 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	通年
概 要	人を対象として支援を行う対人援助職者は、様々な年代の人との関わりを求められることが多い。そのため、相手のライフステージの特徴や課題などを知っておくことが望ましい。また場合によっては、そういった人（特に子ども）の発達の手助けをすることも求められる。本講義では、対人援助職者が知っておくべき人の発達についての基礎的な知識を学び、自身の実践に役立てることができるようになることを目指す。						
到達目標	前期の目標は、人が生涯にわたってどのように発達していくのかを概観し、人の発達について”広く浅く”理解することである。そのために、人の発生から死まで、すなわち胎児期から老年期までの発達の概要を説明する。さらに、それぞれのライフステージにおいてどのような発達の特徴や課題があるのかについても説明する。 後期の目標は、人の発達に関わる主要なテーマについて掘り下げ、人の発達について”狭く深く”理解することである。そのために、PiagetやEriksonなどの著名な発達理論や、性格やアイデンティティといったテーマについて説明する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	生涯発達心理学とは
2	発達の規定因、発達段階、発達課題
3	生涯発達心理学の研究法
4	胎児期、乳児期
5	幼児期
6	児童期
7	道徳性と三歳児神話
8	青年期前期
9	青年期中期・後期
10	中間テスト
11	成人期前期
12	成人期中期（中年期）
13	成人期後期（老年期）
14	キューブラー・ロスについて
15	まとめ
16	気質・性格
17	発達の規定因
18	ハヴィガーストとエリクソン
19	ボウルヴィの愛着理論
20	ピアジェの思考発達段階
21	視覚と発達
22	発達障害とABA（応用行動分析）
23	中間テスト
24	アイデンティティ

25	発達障がいと療育①
26	発達障がいと療育②
27	発達障がいと療育③
28	発達理論のまとめと近年の動向
29	言語聴覚療法と生涯発達心理学
30	まとめ

評価方法	終講試験（100%）
教科書	（指定教科書なし）
参考書	
備 考	積極的な態度で授業に臨むこと。リアクションペーパーも堅実に取り組むこと。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	臨床心理学			担当講師	浮谷 秀一		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	人間を理解する方法を知ること。各種心理検査を知り、自分の性格特性を知る。カウンセリングの基礎的知識を知る。各種心理療法を学ぶ。軽度発達障害について学習をする。						
到達目標	1. 臨床心理学に興味を持つ。人間を理解する方法を知ること。 2. 各種心理検査の分類と内容の説明ができる。 3. 自分の性格を知る。Y-G性格検査の説明ができる。 4. 自分の性格を知る。エゴグラムの説明ができる。 5. 投影法について説明ができる。ロールシャッハテストやTATの説明ができる。 6. フロイト派の考え方の説明ができる。 7. 描画法、バウムテストの説明ができる。 8. ロジャース派の説明ができる。 9. 聴くことの意味、コミュニケーションの方法について説明できる。 10. ブリーフセラピーの考え方を説明できる。 11. ユング派の説明ができる。 12. 各種心理療法の説明ができる。 13. 言語を使わないでコミュニケーションすることの大切さを知る。 14. 軽度発達障害について説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、心理学とは						
2	1. 適応心理 (1) 欲求とは (2) 欲求不満						
3	(3) 葛藤 (4) 適応機制						
4	2. 臨床心理学 臨床心理学とは						
5	3. コミュニケーション バーバルとノンバーバル						
6	感情伝達実験						
7	音声伝達実験						
8	音声伝達実験 (1) カウンセリング (3) 臨床的介入						
9	精神分析 来談者心療法						
10	行動療法						
11	観察法、面接法、検査法、臨床的アセスメント						
12	矢田部ギルフォード性格検査実習						
13	質問紙法、作業検査法、投影法、TEG実習						
14	作業検査法、投影法						
15	臨床事例						
評価方法	終講試験 (100%)						
教科書	(指定教科書なし)						
参考書							
備 考	随時、講義者の作成したプリントを配布する。色鉛筆又はクーピーを用意しておくと便利です。						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	認知心理学			担当講師	松井 進		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	この科目では、人間の心の働きと行動の制御を理解するため、「認知」を主に神経心理学と情報処理学の観点から検討する。「認知機能に関する科学」を学ぶ。						
到達目標	1. 認知心理学に関する歴史的な流れを説明できる。 2. 実験心理学と行動主義の位置づけを説明できる。 3. 認知心理学と関連深い隣接諸学を説明できる。 4. 中枢神経系の機能を細胞のレベルで説明できる。 5. 中枢神経系の機能をシステムレベルで説明できる。 6. 視知覚に関する重要な基本特性を説明できる。 7. 図形知覚に関する諸基本原則を説明できる。 8. 奥行き知覚に関する諸基本原則を説明できる。 9. 運動知覚に関する諸基本原則を説明できる。 10. パターン知覚、とくに相貌認知を説明できる。 11. 注意が認知に及ぼす影響について説明できる。 12. 認知と記憶の基礎的な機構を説明できる。 13. 認知と記憶の具体的な実例を説明できる。 14. 情動が認知に及ぼす影響について説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	認知心理学の歴史
2	実験心理学、行動主義
3	認知心理学と隣接諸学
4	神経生理学基礎- 1
5	神経生理学基礎- 2
6	視知覚の基礎特性
7	図形知覚
8	奥行知覚
9	運動知覚
10	パターン認知（顔の認知）
11	認知と注意
12	認知と記憶- 1
13	認知と記憶- 2
14	認知と情動
15	まとめ

評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する
教科書	最新 認知心理学への招待 サイエンス社
参考書	
備考	授業の形式は「講義」であるが、可能な限り「実験」を取り入れる予定である。実験においては、受講者の積極的な参加を切に望む。

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	学習心理学			担当講師	松井 進		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	学習心理学の基礎を学ぶ。人間や動物の学習はどう研究されてきたか、その結果環境と行動の関係や行動の予測と制御はどこまで可能になったかを知る。また、基礎的学習理論が臨床的な分野とどのように結びついているのかを考えていく。そして、将来言語聴覚士としての応用を考える。						
到達目標	1. 学習の基本的な理論である「条件づけ」のタイプとメカニズムを説明できる（認知） 2. 基本的ないくつかの学習タイプ（条件づけ～モデリングまで）を具体的に説明できる（認知） 3. 学習理論に当てはめ自分自身の行動を客観的に分析することができる（技能） 4. 記憶の種類や特性を説明できる（認知） 5. 日常場面での記憶と実験室実験での記憶の違いを考察できる（態度・習慣） 6. 代表的な発達理論について説明できる（認知） 7. 脳と心は、どのような関係にあるのか、基本的なメカニズムについて理解できる（認知） 8. 条件づけ等学習理論が臨床場面でどのように応用されているか理解できる。 9. 脳に障害をもった人にはどのようなサポートが必要か考えることができる。 10. 言語聴覚士としてエビデンスに基づいた療法を実施できる。 11. 国家試験過去問題の傾向を知り、対策を講ずることができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス 1. 学習の定義 2. 学習の諸理論						
2	I 古典的条件づけ 1. 典型例 2. 行動の獲得						
3	I 古典的条件づけ 3. 条件づけの消去 4. 条件づけの汎化と弁別						
4	II オペラント条件づけ 1. 典型例：報酬訓練、逃避・回避訓練、罰訓練						
5	II オペラント条件づけ 2. 行動の獲得と消去：強化スケジュールと消去手続き						
6	II オペラント条件づけ 3. 汎化と弁別						
7	III 技能学習 1. 鏡映描写実験—学習曲線作成—						
8	III 技能学習 2. 結果の知識 3. 練習の条件 4. 技能の記憶 5. 技能の転移						
9	IV 社会的学習						
10	V 問題解決と推理						
11	VI 概念過程と言語獲得						
12	VII 記憶と忘却 1. 記憶の過程 2. 忘却曲線 -記憶、保持、想起、忘却、干渉説-						
13	VII 記憶と忘却 3. 記憶の病態						
14	VIII 学習の障害 IX 学習理論の医療への応用-医療行動科学概説-						
15	X まとめ、国家試験対策						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	グラフィック学習心理学—行動と認知— サイエンス社						
参考書	現代心理学Ⅰ～Ⅲ サイエンス社 学習心理学への招待 サイエンス社						
備 考	成績評価は受講態度も加味する。時間が許せば、記憶の実験、心理検査等も実施する。						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	心理測定法			担当講師	松井 進		
分 野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	人間の精神的機能を測定する技法と基礎的事項を習得する						
到達目標	1. 行動計量の科学的概念が説明できる。 2. 精神物理学測定が実施でき、測定誤差の統制ができる。 3. 知能検査が実施できる。 4. 尺度構成法に習熟し統計分析ができる。 5. 心理測定法の専門用語が説明できる。 6. 記憶について理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	心理測定法の理論，数量化の意義						
2	性格の測定						
3	行動科学の基礎的概念						
4	精神物理学測定法の基礎概念（閾と認知）						
5	錯視と測定手続き						
6	記憶（ワーキングメモリー）の測定と実験計画法						
7	極限法／恒常法						
8	尺度構成法の基礎（信頼性と妥当性）						
9	心理テストの結果の見方／SD法と評価法／1次元尺度と多次元尺度						
10	知能検査の実際						
11	心理測定の論理と技法／心理測定の目的，概念，対象						
12	心理測定尺度の作成						
13	心理測定尺度の実施						
14	心理測定尺度の集計・分析・標準化						
15	心理測定尺度のまとめと報告／専門用語の確認と国家試験過去問題解説						
評価方法	終講試験100%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	心理測定法への招待 サイエンス社						
参考書	心理テスト法入門第4版 日本文化科学社 心と行動のサイエンス 北樹出版						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	言語学概論			担当講師	高堀 雅子		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	言語学とはどのようなことを研究する分野であるのかを理解する。音声言語が持っている一般的な特徴を知り、音論・形態論・統話論・意味論の各領域における基本的事項を理解する。						
到達目標	1. 言語学とはどのような学問か、理解できる。 2. 言語の音声学的側面を理解できる。 3. 意味論・語用論とは何か、概要を理解できる。 4. 言語の文法構造（主に日本語）とは何か、概要を理解できる。 5. 形態論とは何か、概要を理解できる。 6. 人間以外の動物におけるコミュニケーションを学び、人間のコミュニケーションとの違いを理解できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	言語とは何か①						
2	言語とは何か②						
3	世界の中の日本語①						
4	世界の中の日本語②						
5	日本の方言						
6	語の構造						
7	文の構造						
8	言語行動						
9	中間試験						
10	構成素分析・生成文法①						
11	生成文法②・句構造規則						
12	意味論・語用論						
13	語と語の意味関係						
14	類義語・多義語の分析						
15	音素について						
評価方法	定期試験50%、中間試験30%、課題20%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	よくわかる言語学入門—解説と演習（日本語教師トレーニングマニュアル）						
参考書							
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	心理言語学			担当講師	石渡 千沙絵		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	ことばとはなにか、基本的枠組みを理解する。ことばと他の認知能力の関係を理解する。コミュニケーション手段としての言語の働きを理解する。						
到達目標	1. 心理言語学とはどのような学問か、理解できる。 2. 言語の獲得について、理解できる。 3. 言語の認知について、理解できる。 4. 言語の運用について、理解できる。 5. 言語と脳の関係について、理解できる。 6. 言語と思考の関係について、理解できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	言語と情報処理・概論（音韻・語彙・意味・統語・談話）
2	認知能力の成長・ブルーナー
3	ことばをつくる・トマセロ
4	刺激等価性・シドマン
5	認知意味論・レイコフ
6	解読と符号化・ヤコブソン
7	言語学における社会学的方法の基本的問題・バフチン
8	言語と行為・オースティン
9	言語ゲーム・ウィトゲンシュタイン
10	関連性理論・スペルベルとウィルソン
11	言語学と心理学・レオンチェフ
12	思考と言語・ヴィゴツキー
13	言語と意識・ルリア
14	生きている世界はどのようにして生まれるのか・マトゥラーナとヴァレラ
15	ことばの神経生物学的機構

評価方法	レポートにて成績を評価する（100％）
教科書	適宜資料を配布
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	音声学			担当講師	石渡 千沙絵		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	この講義では音声学と音韻論、構音法の基礎的な理論を理解しながら、言語聴覚士として必要な音声言語の訓練法を学んでいく。						
到達目標	1. 日本語の音声について理解することができる。 2. 日本語音声の構音法と口腔器官のメカニズムについて理解することができる。 3. 母音の分類と構音法について理解することができる。 4. 子音の分類と構音法について理解することができる。 5. IPAによる構音標記について理解することができる。 6. 音節とモーラについて理解することができる。 7. 日本語のアクセントについて理解することができる。 8. 日本語のイントネーションについて理解することができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	音声の性質、発声の仕組み						
2	調音器官と調音点						
3	母音・IPAの見方①						
4	母音・IPAの見方②						
5	具体的な音声①						
6	具体的な音声②						
7	アクセント						
8	中間試験						
9	具体的な音声・そり舌音/硬口蓋音①						
10	具体的な音声・そり舌音/硬口蓋音②						
11	具体的な音声・そり舌音/硬口蓋音③／軟口蓋音						
12	具体的な音声・軟口蓋音②						
13	口蓋垂音、IPAでの表記①						
14	口蓋垂音、IPAでの表記②						
15	促音・長音						
評価方法	定期試験50%、中間試験30%、課題20%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	日本語音声学入門						
参考書	日本語の音声入門―解説と演習（日本語教師トレーニングマニュアル）						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	音響学			担当講師	石渡 千沙絵		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	音声の物理的側面の基本的な事項を理解する。基礎的な数学の知識（三角係数、指数関数、対数関数）が必要となるが、講義において基礎知識を身につける。						
到達目標	1. 波が持つ特徴を説明できる 2. 波長・周期・周波数・振幅について説明できる 3. 周波数について説明できる 4. 共鳴現象を説明できる 5. 音の強さと大きさが波形として表されるとき、その関係をグラフから説明できる 6. 対数の計算ができる 7. 音の強さと音圧の計算ができる 8. 線スペクトルと連続スペクトルについて説明できる 9. フーリエ変換がどのようなものか説明できる 10. 音源フィルター理論における3つの特性を説明できる 11. フォルマントを説明できる 12. フォルマントと舌との関係を説明できる 13. サウンドスペクトログラムを読むことができる 14. フォルマント遷移、ローカスを説明できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション、音の物理学入門						
2	音源フィルタ理論、音に関する物理量						
3	音の基本公式、純音、複合音、フーリエの原理						
4	対数・指数関数、デシベル表示						
5	音声波形表示、スペクトル表示、サウンドスペクトログラム						
6	呼吸・発声のしくみ、スペクトルとサウンドスペクトログラムの関係						
7	音源フィルタ理論、共鳴する条件						
8	狭帯域分析、広帯域分析、標本化定理						
9	中間試験						
10	アナログとデジタル、標本化、量子化、サンプリング周波数						
11	中間試験解説						
12	Praatで音声波形分析、周波数分析、信号とシステム、線形システム						
13	母音・鼻母音の音響分析、母音の無声化、調音結合						
14	音声表記と音韻表記、日本語母音・子音の音響特徴						
15	超分節の特徴、声の性差、ラベリング						
評価方法	終講試験50%、中間試験30%、課題20%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する						
教科書	言語聴覚士のための音響学 医歯薬出版株式会社						
参考書	言語聴覚士の音響学入門 海文堂 図解雑学『音のしくみ』 音のなんでも小事典 ブルーバックス						
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。						

2022年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	聴覚心理学			担当講師	石渡 千沙絵		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	音の聴覚における認知は物理的に捉えたものと異なる点がある。このことを念頭に置き、聴覚における心理的側面を理解する。						
到達目標	1. フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則、ウェーバーの法則を説明できる。 2. メル尺度を説明できる 3. ソーン尺度を説明できる。 4. 場所ピッチと時間ピッチを説明できる。 5. マスキングを説明できる。 6. 臨界帯域を説明できる。 7. 両耳聴について説明できる。 8. 聴覚の情景分析、視聴覚情報の統合、生活環境と聴覚を理解できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション, 聴覚器官の構造と機能
2	音声知覚の基本
3	聴こえの仕組み, ヒトの可聴範囲, 音の強さ
4	音の大きさ・尺度, 音の高さ・尺度
5	音の大きさの法則, 音場, 騒音計, 周波数分析
6	音の種類
7	両耳聴
8	マスキング
9	中間試験
10	範疇的知覚
11	両耳分離聴
12	聴覚フィルタ
13	音声知覚の障害
14	音声知覚の運動理論
15	まとめ

評価方法	終講試験50%、中間試験30%、課題20%、出席・受講態度等10%に基づいて学修成果を判定する
教科書	言語聴覚士のための音響学 医歯薬出版株式会社 たのしい音声学 くろしお出版
参考書	言語聴覚士の音響学入門 海文堂 図解雑学『音のしくみ』 音のなんでも小事典 ブルーバックス
備考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	言語発達学			担当講師	石井 汰樹		
分野	専門基礎分野	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	「ことば」はヒトの成長・発達の過程においてどのように獲得され、習得するようになったのかを理解する。また、代表的な言語発達理論やことばの障害、障害受容についても学ぶ。						
到達目標	1. 人間の命について考えることができる 2. 乳幼児期のコミュニケーションの発達について理解できる 3. 語彙の獲得について理解できる 4. 文の獲得について理解できる 5. 語りの発達について理解できる 6. 心の理論について理解できる 7. 代表的な言語発達理論について理解できる 8. 障害受容の過程について考えることができる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス・言語発達学総論						
2	いのちを考える						
3	前言語期の発達 1						
4	前言語期の発達 2						
5	赤ちゃんの脳と体の成長						
6	幼児前期の発達 1						
7	幼児前期の発達 2						
8	幼児後期の発達 1						
9	幼児後期の発達 2						
10	幼児後期の発達 3						
11	4歳児のヒミツ						
12	学童期の発達 1						
13	学童期の発達 2						
14	学童期の発達 3						
15	障害受容を考える						
評価方法	終講試験100%により学修成果を判定する						
教科書	言語発達障害学 医学書院						
参考書	ドリルプラス 言語発達障害						
備 考	講義資料と教科書・参考書を読み、予習復習を行うこと						

2023 年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	リハビリテーション概論			担当講師	高堀 雅子		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	言語聴覚士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	リハビリテーションの基礎を学ぶ。						
到達目標	1. リハビリテーションの定義と目的を説明できる。 2. 国際障害分類の概念を理解できる。 3. リハビリテーションの流れ（諸段階）を理解できる。 4. ノーマライゼーションの概念を理解できる。 5. 地域リハビリテーションの概念を理解できる。 6. リハビリテーション医学の概念を理解できる。 7. リハビリテーション看護の概念を理解できる。 8. 理学療法の概念を理解できる。 9. 作業療法の概念を理解できる。 10. 言語聴覚療法の概念を理解できる。 11. 介護福祉士の概念を理解できる。 12. 医療ソーシャルワーク（MSW）の概念を理解できる。 13. 精神保健福祉（PSW）の概念を理解できる。 14. 専門職に求められる職業倫理を理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	リハビリテーションとは①						
2	リハビリテーションとは②						
3	ノーマライゼーション						
4	障害とリハビリテーション①						
5	障害とリハビリテーション②						
6	リハ医概論						
7	リハ看護概論						
8	作業療法						
9	理学療法						
10	MSW概論						
11	精神保健福祉士概論						
12	障害者総合支援法						
13	地域リハ						
14	職業倫理①						
15	職業倫理②						
評価方法	終講試験(100%)に基づいて学修成果を判定する。						
教科書	言語聴覚士テキスト第3版						
参考書	基礎と課題から学ぶ新時代の社会福祉						
備 考	講義資料と教科書を読み、予習復習を行うこと。						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	社会福祉学			担当講師	伊藤 浩一、小林 信彦、高堀 雅子		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	3年次	学 期	前期
概 要	社会福祉とは何か。社会福祉サービスの体系・対象と援助技法、従事者の職業倫理と利用者保護、制度と法・財政、歴史、国内外の動向等を踏まえ、現代社会における社会福祉の理念と意義について学習し、社会と人間に対する理解を深める。						
到達目標	1. 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解する。 2. 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解し、追体験する。 3. 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。 4. 社会福祉の専門性と倫理について理解する。 5. 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解する。 6. 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。 7. 社会福祉をめぐるわが国及び諸外国の動向について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	社会福祉とは何か
2	社会福祉の歴史と理念
3	現代における社会福祉の役割
4	社会福祉の対象と把握の方法
5	社会福祉援助の活動領域
6	援助の方法と気づきの促進1
7	援助の方法と気づきの促進2
8	社会福祉におけるチームワークと連携
9	社会福祉の基礎構造改革
10	社会福祉専門職と資格制度
11	社会福祉のしくみ1
12	社会福祉の仕組み2
13	社会福祉をめぐる動向1（児童虐待 DVの理解と支援）
14	社会福祉をめぐる動向2（改正介護保険法、障害者自立支援法）
15	まとめの討論 社会福祉とは何か

評価方法	終講試験の点数（100％）に基づいて学修成果を判定する。
教科書	新時代の社会福祉 ふくろう出版
参考書	言語聴覚士テキスト第3版
備 考	毎日、新聞をよく読むことを勧める。教科書は特に指定しないが、随時授業の中で参考書籍を紹介する。討論、演習を中心にした授業を行う。学習テーマにより事前あるいは事後にレポートの提出を求める。